

# 漁港は魚の保育園

http://www.gyokou.or.jp/

# 漁港漁場月報

平成30年2月15日 発行  
 毎月 1回15日発行  
 編集兼発行人 公益社団法人 全国漁港漁場協会  
 橋本 牧  
 東京都港区赤坂1-9-13三會堂ビル8階  
 電話 東京(5114)9981  
 定価 1部 70円  
 (会員の購読料は会費の中に含む)

## 漁港漁場漁村整備促進議連が総会

漁港漁場漁村整備促進議員連盟(会長・衛藤征士郎衆議院議員)は、1月31日15時から自民党本部で総会を開き、平成29年度水産基盤整備関係修正予算案、平成30年度水産基盤整備関係修正予算案及び漁港漁場整備長期計画の取組状況について水産庁から聴取した。

### 予算案について水産庁から聴取



挨拶する衛藤会長

面(の達成等に全力で頑張りたい)、今後とも力強いご支援をお願いしたい」と挨拶した。

続いて、岡田行徳漁港整備部長から平成29年度修正予算案と平成30年度予算案について資料に基づき説明した。

援活動等の拠点整備(鹿児島県口永良部漁港、⑦漁港用地の有効活用による陸上養殖施設整備(鳥取県泊瀬港、⑧漁港用地の有効活用による)

見や経済等の支援策について教示願いたい、千葉県は養殖の県でもあるが、磯焼けが深刻であるが、磯焼けが深刻な現場もある。鉄鋼工業の活用は効果があると言われているのではないかと、サロマ湖のホタル漁業は、豪雨に伴う川からの土砂が問題となっている。関係機関と連携して対策を検討願いたい、都市漁村交流の促進の施設整備について

例説明があったが、水産関係予算と民間資金の活用状況等について教示願いたい、等の要望や意見等が多数出された。その後、漁港漁場関係団体を代表し、公益社団法人全国漁港漁場協会の橋本牧会長が、平成29年度修正予算及び平成30年度予算案の確保に対するお礼を述べるとともに、漁港漁場整備長期計画の達成に向けた支援を要請した。最後に、衛藤会長が、

一漁港漁場の整備については、先方の方力を借りたい、しっかりと対応したい、海の環境は大変な変化しており、大変な時期を迎えている。来年予算も多くの課題を抱えているので、議員の力を新たな推進のメンバーを新たに増やしたい、と、衛藤の挨拶。政府・関係団体が一丸となって、早め早めに対応を求めた」と挨拶し、総会は終了した。

総会には衛藤征士郎会長のほか、伊東昌孝、伊藤忠彦、岩田和親、大野

敬太郎、加藤寛治、金子恭之、金方春夫、北村誠吉、斎藤勇明、高鳥修一、武部新、富岡勉、中谷元、藤井比呂志、藤丸敏、細田健一、三原朝彰、宮路孝馬、山本有一、渡辺孝一の21名の衆議院議員と、45名の代理出席があった。

水産庁の説明の前に、磯崎陽輔農林水産副大臣から一議連の先生方には日頃より大変お世話になっている。今年度は漁港漁場整備長期計画の初年度として大事な年であったが、厳しい予算環境の中で先方のご支援をいただき来年度の水産基盤整備事業等の必要額を確保できた。水産物の輸出促進のため高度衛生管理対策が必要とされている。また、

①輸出に対応した生産・流通体制の確保(分口マ湖、湧別、常呂漁港)、②水産物流通機能の強化(大分県佐賀瀬漁港)、③マクロの養殖体制の強化(長崎県尾崎漁港)、④漁場の回復対策(青森県三八地区)、⑤木材の魚礁への利用(宮城県大浜湾)、⑥災害時の救

説明の後、意見交換が行われ、出席議員からは、一屋限付き居座り避難施設等の防災・減災対策は要望が強いと懸念されている。その達成状況について、I、I五島の小値賀島などは磯焼けによりあわがの生産が激減している。環境に負荷がかからない着目基礎等の研究が行われているが、新たな

環境が大きく変化し、魚種の組成や来遊の変化、外国漁船の活発化等、水産資源を巡る環境は大きく変化している。今年度は水産資源の改革を具現化していくこととする。夏は、浜プランでは計画の進捗が遅れている。資源管理をしっかりと行い、沿岸漁業者が現在頑張っている漁業が、引き続き継続されることを基本とし、未利用、低利用の水域の活用を図り新規参入を促していく。これに伴い、流通の見直しや取組について、新しい漁港整備長期計画が閣議決定し、これに基づき平成30年度予算が編成された。重点課題を推進して行きたい。国と都道府県の連携が不可欠である。是非、地域水産業者の一層の活性化に努めていただきたい。との挨拶があった。

また、漁港漁場整備部長の挨拶があった。平成29年度修正予算案の確保について、関係機関と連携して対策を検討願いたい、都市漁村交流の促進の施設整備について

聞きしており、非公共の漁港機能増進事業等を拡充しているの活用していただきたい。漁村の活性化では、今年度漁港がスタートしており、また、浜プランでは計画の進捗が遅れている。資源管理をしっかりと行い、沿岸漁業者が現在頑張っている漁業が、引き続き継続されることを基本とし、未利用、低利用の水域の活用を図り新規参入を促していく。これに伴い、流通の見直しや取組について、新しい漁港整備長期計画が閣議決定し、これに基づき平成30年度予算が編成された。重点課題を推進して行きたい。国と都道府県の連携が不可欠である。是非、地域水産業者の一層の活性化に努めていただきたい。との挨拶があった。

また、漁港漁場整備部長の挨拶があった。平成29年度修正予算案の確保について、関係機関と連携して対策を検討願いたい、都市漁村交流の促進の施設整備について

聞きしており、非公共の漁港機能増進事業等を拡充しているの活用していただきたい。漁村の活性化では、今年度漁港がスタートしており、また、浜プランでは計画の進捗が遅れている。資源管理をしっかりと行い、沿岸漁業者が現在頑張っている漁業が、引き続き継続されることを基本とし、未利用、低利用の水域の活用を図り新規参入を促していく。これに伴い、流通の見直しや取組について、新しい漁港整備長期計画が閣議決定し、これに基づき平成30年度予算が編成された。重点課題を推進して行きたい。国と都道府県の連携が不可欠である。是非、地域水産業者の一層の活性化に努めていただきたい。との挨拶があった。

### 平成29年度漁港漁場関係担当課長会議を開催

水産庁

水産庁は、2月14日農林水産省庁内において、平成29年度漁港漁場関係担当課長会議を開催し、都道府県漁港漁場整備担当課長ら関係者約20名が出席した。

会議は、長谷川水産庁長官から、農林水産大臣の新年の挨拶、我が国は本格的な人口減少の時代を迎えているが、世界では人口やマーケットが増加していること、眼を向け改革を進めていることのお話があった。我が国周辺海域では、海の

環境が大きく変化し、魚種の組成や来遊の変化、外国漁船の活発化等、水産資源を巡る環境は大きく変化している。今年度は水産資源の改革を具現化していくこととする。夏は、浜プランでは計画の進捗が遅れている。資源管理をしっかりと行い、沿岸漁業者が現在頑張っている漁業が、引き続き継続されることを基本とし、未利用、低利用の水域の活用を図り新規参入を促していく。これに伴い、流通の見直しや取組について、新しい漁港整備長期計画が閣議決定し、これに基づき平成30年度予算が編成された。重点課題を推進して行きたい。国と都道府県の連携が不可欠である。是非、地域水産業者の一層の活性化に努めていただきたい。との挨拶があった。

また、漁港漁場整備部長の挨拶があった。平成29年度修正予算案の確保について、関係機関と連携して対策を検討願いたい、都市漁村交流の促進の施設整備について

青木一彦事務局長(参議院議員)の司会で議事が進められた。冒頭、衛藤会長から皆様が、日頃より、漁港・漁場・漁村の整備振興にあたり多大なご尽力を賜っていることに感謝申し上げる。昨年は新たな漁港漁場整備長期計画が策定されたが、大事な年となり、当議連も岩手県での漁港振興や意見交換会の開催、財務省主計局長への申し入れなどを行い、大きな成果を上げることができた。漁港

漁港漁場の整備は我が国の水産業を支える重要な施策であり、当議連が全国各地の水産業者及び漁村を擁護し、支える役割を担っており、支えの活動を行って参りたい。また、先の選挙も多く、議員が変わられたので、議員の加入について皆様の意向を伺い、ご協力をお願いして参りたい。と挨拶があった。

続いて、青木事務局長が平成29年度の公務・会計報告を行い承認され

場整備長期計



活発な意見交換が行われた

水産庁は、2月14日農林水産省庁内において、平成29年度漁港漁場関係担当課長会議を開催し、都道府県漁港漁場整備担当課長ら関係者約20名が出席した。

会議は、長谷川水産庁長官から、農林水産大臣の新年の挨拶、我が国は本格的な人口減少の時代を迎えているが、世界では人口やマーケットが増加していること、眼を向け改革を進めていることのお話があった。我が国周辺海域では、海の

環境が大きく変化し、魚種の組成や来遊の変化、外国漁船の活発化等、水産資源を巡る環境は大きく変化している。今年度は水産資源の改革を具現化していくこととする。夏は、浜プランでは計画の進捗が遅れている。資源管理をしっかりと行い、沿岸漁業者が現在頑張っている漁業が、引き続き継続されることを基本とし、未利用、低利用の水域の活用を図り新規参入を促していく。これに伴い、流通の見直しや取組について、新しい漁港整備長期計画が閣議決定し、これに基づき平成30年度予算が編成された。重点課題を推進して行きたい。国と都道府県の連携が不可欠である。是非、地域水産業者の一層の活性化に努めていただきたい。との挨拶があった。

また、漁港漁場整備部長の挨拶があった。平成29年度修正予算案の確保について、関係機関と連携して対策を検討願いたい、都市漁村交流の促進の施設整備について

聞きしており、非公共の漁港機能増進事業等を拡充しているの活用していただきたい。漁村の活性化では、今年度漁港がスタートしており、また、浜プランでは計画の進捗が遅れている。資源管理をしっかりと行い、沿岸漁業者が現在頑張っている漁業が、引き続き継続されることを基本とし、未利用、低利用の水域の活用を図り新規参入を促していく。これに伴い、流通の見直しや取組について、新しい漁港整備長期計画が閣議決定し、これに基づき平成30年度予算が編成された。重点課題を推進して行きたい。国と都道府県の連携が不可欠である。是非、地域水産業者の一層の活性化に努めていただきたい。との挨拶があった。

